

# G 1 部会 研究の成果と課題

## 1 指導計画の工夫について

単元末や小単元末に、既習内容を基に解決できる発展問題や知的好奇心を刺激するゲーム的な問題に取り組む時間を設定した。その結果、算数に対する児童の興味・関心は高まり、意欲的に問題解決に取り組む姿が見られた。

また、児童が課題を選択する学び直しの時間を、単元末や小単元末に設定した。児童自身が自分の学習状況に応じた問題に挑戦する経験を積み重ねた結果、自己評価能力の伸長や学習内容の確実な習得を図ることができた。

今後は、「一単位時間内における発展問題の導入を工夫すること」「児童の実態に応じた発展問題や実生活に根ざした発展問題の開発」「学び直しの時間のより効果的な設定の仕方」を課題として、研究に取り組んでいきたい。

## 2 指導方法及び指導過程の工夫について

日常の生活場面と関連があり、やや解決に困難を感じさせる問題を作成した。身近に感じる課題を提示することで、「おもしろそう」「解いてみたい」という意欲を高めることができた。

自力解決の場面では、解決の時間を十分に確保し、自分の考えを絵や図、言葉などで表現させるようにした。数直線図の活用は、解決のイメージをもたせることができた。また、それぞれの学習状況に応じた支援を行った結果、個々の児童に解決の見通しをもたせることができ、集中して問題解決に取り組むことができた。さらに、グループ全体で多様な考えを生み出すことができ、話し合いの活性化につながった。

学び合いの場面では、「一人一人の考えのよさを認めること」「共通点や異なる点を見つけること」「別な数字や場面に置き換えて考えること」などに重点を置いた。様々な単元で話し合いの場を数多く設定した結果、一般化に至る過程の中で、より効率的で確実性の高い考えを見つけていこうとする意識が子どもたちの中に定着した。また、黒板に書きながら説明することで、自分の考えを分かりやすく相手に伝えることができ、よりよい方法に気付く手立てとなった。

今後は、多様な考えを引き出し、学び合いを深めるための指導者としての支援のあり方を追究する必要がある。

## 3 評価の工夫について

自力解決の場では、児童一人一人の考えを見取るために座席表を活用した。また、ノートに吹き出しを書かせ、自分の考えを簡潔にまとめさせることで、短時間に児童の考えを見取ることができた。

授業後の学習感想を継続して書かせることで、児童の内面をとらえることができ、その変容を見ることができた。

今後は、数学的な考えを見取るためのよりよい方法を吟味していく必要がある。さらに、「学習チェックカード」のより効果的な活用の仕方も検討していきたい。